

太陽光×蓄電池で再エネの価値を最大化
— マルチユース運用による実証設備が本日、運用開始 —

当社は、「再生可能エネルギーの有効活用」と「卒FIT^{※1}を見据えた持続的なビジネスモデル構築（FIP^{※2}への転換、マルチユース運用）」の実証を目的に、当社大村メガソーラー第4発電所への併設蓄電池の設置を進めておりました。

[\(2025年2月4日プレスリリース済\)](#)

このたび、本設備は2026年2月4日に竣工、本日、2月5日より運用を開始しましたのでお知らせします。

【本実証事業の概要】

実証の目的（1）	<p>「再生可能エネルギーの有効活用」のため、本実証では、蓄電池を併設して、当該発電所の出力抑制が発生する昼間から夕方等に発電のタイムシフトを実施。昼間は当該太陽光発電所から蓄電池に充電して出力制御を回避し、夕方は蓄電池から放電して売電するタイムシフトで再エネの有効活用と価値向上を図る。</p>
同（2）	<p>「FIP^{※2}への転換」により、卸電力市場での市場価格売電と一定のプレミアム（補助額）を受け取る仕組みへの移行。</p> <p>また、蓄電池の「マルチユース運用」では、卸電力市場に加え、需給調整市場でも取引を実施。太陽光発電に併設した蓄電池を2つの市場で最適に運用し、収益の最大化を図る。</p> <p>注）本運用は、九州電力㈱総合研究所が保有する発電量予測技術や蓄電池の最適運用に関する研究成果を活用</p>
当社の最終目標	<p>本事業モデルの実用化により、<u>卒FIT後も安定した収入が期待できることから、当社は自社設備への展開にとどまらず、他社発電設備の運用受託にも取り組み、事業拡大を図る。</u></p>
公募事業	<p>令和6年度予算 再生可能エネルギー電源併設型蓄電池導入支援事業（経済産業省資源エネルギー庁）を活用</p>

当社は、2050 経営ビジョンとして「みらいを拓く、世界有数のグリーンエネルギー企業」を掲げています。本実証は、当社が最初にメガソーラーを拓いた大村メガソーラー発電所で実施するものであり、今回、新たに太陽光併設型蓄電池のビジネスモデルを拓き、さらなる発展を目指します。

以上

※1 発電事業者が再エネ電気を一定期間、固定価格で買取りを受ける制度

※2 発電事業者が市場で売電した価格に一定のプレミアム(補助額)を受ける制度

設備概要

- 大村メガソーラー第4発電所（既設）
 - ・所在地：長崎県大村市寿古町（大村火力発電所跡地）約3.2万㎡
 - ・事業者：九電みらいエナジー株式会社
 - ・発電規模：1,990kW（パネル容量2,730kW）
 - ・発電量：2.7GWh（2023年度実績）
- 併設型蓄電池（新設）
 - ・出力・容量：1,990kW・7,404kWh（3.7時間）
 - ・設置場所：大村メガソーラー第4発電所敷地内 約170㎡



- ・大村メガソーラー第4発電所の併設蓄電池ドローン撮影による映像は[コチラ](#)